

わが会が語り継ぐ高槻名誉市民の中に、村上三島さんがいらっしゃいます。三島さんは愛媛県に生まれ、中学の明けがで入院し後遺症がでるなど惨めな青春時代でありました。しかし、20歳過ぎてから本当の書道に触れ、朝から晩まで書道一辺倒での生活でした。その中彼独自の解釈を加え、流暢で躍動感ある書風を確立した、我が国を代表する書家であります。

そして、平成10年には書の道70余年の業績が称えられ、文化勲章を受章されました。

本物の書というものには上手下手とは別物で、その人の人間そのものが書に表れているのだとおっしゃっています。本年度は、高槻生まれではないが、三島氏の書を訪ねる中で、その筆脈の本髄・心を探るため、高槻市を歩いてみる予定です。(編集記)



語り継ぐ会会報

■今年度初回高碓達之助研究会開催される

新元号発表直後の喧騒と新鮮で晴れやかな時節感の伴う4/1(月曜)Pm2:00~4:00 高槻クロスパル会場にて当会研究員(内野、川崎、北村)による高碓達之助パネルディスカッションが開催されました。

北村塾長、川崎・内野生徒と設定の下、「高碓観」を交えての事項紹介、今までの講座のまとめが行われました。そのあと翁の世界観・大きな功績・翁が今いませば等、出席者参加のやり取りも行われました。

お三方それぞれの人生や職業を通しての翁への強い関心やお人柄への理解、あるいは企業人として、また国際政治家として果たされてきた数々の貢献についての議論と質疑応答が白熱し、初めての研究者(会員)のパネルディスカッション

でしたが成功裡に終わりました。



■今月中川塾開催される

4/15(月曜)の当会例会は高槻クロスパル会場にて数年前時代小説(高田郁)やNHKドラマでも脚光を浴びた「銀二貫」をもとに中川塾長より「高槻の風景～寒天作り」と題し講演をいただきました。

中川塾長によると、当地高槻市原地区に寒天の手法が伝わったのが1781~1789頃(宮田半兵衛)で、完成品は原牛地藏付近から京坂峠より桧尾川水運で前島より淀川經由大阪へと送られたそうです。そして近年原地区でのこの寒天作りが一気に衰退したのは1958年松が丘、安岡寺住宅開発に伴う新道(府道枚方-亀岡線)建設により堂ノ前峠(市バス旧上の口)付近の標高が十数m削り採られ、気候温暖化が加速した為寒天作りの適地ではなくなると推測されているようです。



(投稿) 宮本 研究員

高碓達之助翁ゆかりの荘川桜がようやく今年も満開のようです。今しがた(4/30)現地より投稿された内容をシェアさせていただきました。

数年前グループでお連れいただいた樹齢400有余年の堂々たるエドヒガンの巨木の円熟した雅と魔性のような包容力のある美しさは感動的でした。



■(高碓)「達ちゃん倶楽部」設立される

学ぶ会のメンバーを中心に、この度上記の会が設立されました。月に一回懇親会として皆さんとのコミュニケーションを深め、高碓翁の話題を自由に話、明日の活力にしようとの思いです。

元気あるシニアの会です。

日時: 毎月第一月曜日 16:00~18

場所: 無法松(高槻市高槻町)

会費: ¥2,000-



【語り継ぐ会連絡先】 馬淵晴彦 FAX:072-689-3674

メール: h_mabuchi@office.zaq.jp

HP: <http://takatuki-meiyo.sakura.ne.jp/>

NPO 法人

高槻名誉市民を語り継ぐ会